

特集2 ブリーディングローンについて

獣医師 三浦 匡哉

毎年、大森山動物園では新しい動物を導入していますが、動物園に新しく動物を入れる方法をみなさんはご存じでしょうか？

動物は、多くの場合、他の動物園や水族館、動物商からやってきます。この時、動物商からは、お金を払って動物を買って（購入）いますが、他の動物園や水族館からは、無償で譲り受けたり、大森山動物園で飼っている動物と交換することがあります。

この他に、今回特集する、「ブリーディングローン」という方法があります。



ブリーディングローンとは？

ブリーディングローン(Breeding Loan。以下BLとします。)とは、**繁殖を目的にした動物の貸し借り**のことです。

動物を買うとお金がかかります。でも、BLで動物を借りるのであればお金はかからず、動物の所有権も貸し出し元の園館に残ります。つまり、買った、もらった、もらった場合、動物の持ち主は大森山動物園になりますが、BLの場合、その動物の持ち主は元の園館ということになります。

そして、生まれた子供の所有権については、BLの契約をするときにあらかじめ決めておきます。例えば、第1子は元の所有者である園館、第2子は大森山動物園、その後生まれた子供についてもこの順番のままという具合です。

なぜBLをするのか？

動物園や水族館では、希少な動物の数を増やす努力をしていますが(種保存)、ひとつの園館だけの努力ではとても難しいのです。例えば、同じ親から生まれた子供だけがどんどん増えていくと、血統的に偏りが出てきます。いわゆる「血が濃くなる」状態になり、その種にとってよくありません。

そこで、購入のための費用はかけずに、活発に動物の貸し借りを行うことで、希少動物の繁殖の機会を少しでも増やそうという取り組みが、全国の動物園・水族館で行われています。

こうした活動は、(社)日本動物園水族館協会の種保存事業にも位置づけられ、全体協力の元で進められています。

大森山動物園でのBLの状況について

大森山動物園では様々な動物をBLで借り受け、また、貸し出しています。

最近では、昨年11月に盛岡市動物公園からキリンのリンリン(ただし、所有園は東京都多摩動物公園)がやってきました。また、6月にはアムールトラのアルルを広島市安佐動物公園に貸し出しています。



借り受けている動物

動物名	性別	愛称	借り受け園館名	契約年月日
タンチョウ	♂	シゲタ	東京都恩賜上野動物園	S59.4.5
カリフォルニアアシカ	♀	スミコ	神戸市立王子動物園	S63.9.15
ユキヒョウ	♀	ライサ	名古屋市東山動物園	H3.11.15
マナツル	♀		東京都多摩動物公園	H4.2.26
アカコングウインコ	♀		埼玉県こども動物自然公園	H5.6.10
チンパンジー	♀	ジェーン	東京都多摩動物公園	H5.10.27
オオバタン	♀		埼玉県こども動物自然公園	H7.3.1
ニホンイヌワシ	♂	青葉	仙台市八木山動物公園	H8.11.1
ニホンイヌワシ	♂	信濃	東京都多摩動物公園	H12.11.24
レッサーパンダ	♀	ナナ	東京都多摩動物公園	H15.3.14
カリフォルニアアシカ	♂	マヤ	千葉市立動物公園	H11.10.5
ベンガルヤマネコ	♀	ダイヤ	東京都恩賜上野動物園	H12.7.11
ワタボウシパンシエ	♀		千葉市立動物公園	H15.2.16
ダイアナモンキー	♂		福岡市動物公園	H16.2.26
ダイアナモンキー	♀		札幌市円山動物園	H16.4.23
シンリンオオカミ	♂	シン	富山市ファミリーパーク	H17.10.27
シンリンオオカミ	♀	キララ	富山市ファミリーパーク	H17.10.27
ワタボウシパンシエ	♀		千葉市立動物公園	H18.2.27
アメリカビバー	♂		新潟市水族館	H19.3.8
アムールトラ	♀	アシリ	東京都多摩動物公園	H19.3.9
レッサーパンダ	♂	ユウタ	長野市茶臼山動物園	H20.9.10
アミメキリン	♀	リンリン	東京都多摩動物公園	H20.11.12

貸し出している動物

動物名	性別	愛称	貸し出し園館名	契約年月日
マナツル	♂		飯田市動物園	H8.5.17
クロエリハクチョウ	♀		京都市動物園	H9.3.25
フタコブラクダ	♀	典子	大阪市天王寺動物園	H9.5.6
フタコブラクダ	♀	蘭田	東京都立大島公園	H10.9.28
ミドリコングウインコ	♂		埼玉県こども動物自然公園	H10.1.5
ワオキツネザル	♂	ベシー	富士自然動物公園	H14.1.8
ジャガー	♂	ドルト	大阪市天王寺動物園	H14.3.5
タイハクオウム	♀	カボ	みさき公園	H14.7.10
チンパンジー	♂	コブハイ	横浜市立野毛山動物園	H14.8.12
ジェフロイクモサル	♀		宇都宮動物園	H15.3.14
イヌワシ	♀	空	盛岡市動物公園	H15.11.4
イヌワシ	♀	光	いしかわ動物園	H19.3.31
カリフォルニアアシカ	♀	ナナミ	とべ動物園	H19.6.18
グラントシマウマ	♀	ナイーブ	仙台市八木山動物公園	H19.11.6
トナカイ	♀	ハルコ	千葉市動物公園	H20.2.26
ラマ	♂	マサル	市原ぞうの国	H20.3.26
バドジロオマキサル	♂	ティム	那須ワールドモンキーパーク	H20.5.19
ワタボウシパンシエ	♀		埼玉県こども動物自然公園	H21.3.16
アムールトラ	♀	アルル	広島市安佐動物公園	H21.6.5
アフリカタテガヤマアラシ	♂	ガチャピン	とべ動物園	H21.8.31

※上表および左表の動物は、契約年月日順に掲載しています。

飼育レポート

BL借り受け動物の近況と繁殖実績について

貸し借りする動物については、毎年その飼育状況について報告することが契約書で決められています。あらためて、BLで秋田にやってきた動物の最近の暮らしや繁殖の実績についてレポートします。

アメリカビバー

担当 1班 菅野 達也



生まれた子供に授乳するモリコ
子供たちと眠るモリオ(中央)

大森山動物園では、オスとメス1頭ずつと、その子供2頭の計4頭のアメリカビバーを飼育している。オスのマリオは新潟にあるマリンピア日本海から、平成19年3月に来園した。メスのモリコは大森山生まれである。

来園した当初のマリオにはまだ幼さが残っていて、年上のモリコに甘えるような行動が多く見られたので、マリオが父親になるのはもう少し先かと考えていた。しかし、その年の冬には、当時いたもう1頭のオスを威嚇したり、追いかけてまわすなどの行動がみられるようになり、年が明けた

2月頃には、モリコにプールで交尾しようとする姿も確認できた。繁殖を期待していたところ、モリコの胸部にふくらみがではじめ、6月のはじめに2頭の子供が無事生まれた。マリオと子供たちの間にトラブルもなく、子供たちはすくすくと成長することができた。

良くも悪くもマイペースなマリオ。今回は、年上のモリコに育児をまかせることが多かったように思えた。最近では少しずつ成長しているようなので、次に子供が生まれる時には、もっと父親らしくなってくれることを期待している。

アムールトラ

担当 2班 佐藤 正



小さい頃のアルルとミルル
アシリ(左)とウィッキー

当園では、希少動物のアムールトラの繁殖を目指すため平成19年6月に東京都多摩動物公園からアシリ(メス10歳)を借り受け、平成17年3月から飼育展示しているウィッキー(オス10歳)の2頭で飼育が始まった。

10月末にアシリの発情を確認して同居を始めると、すぐ繁殖行動等が観察され、職員全員が二世誕生への期待を膨らませていた。当園でのアムールトラの繁殖は初めてだが、アシリ自身は3回の出産経験があり、無事に産んでくれることを信じていた。それでも多摩動物公園の飼育担当

の方からアドバイスを頂き、アシリが落ち着いて出産・育児ができるように念入りに環境作りに努めた。

平成20年3月6日、ついにその日が来た。2頭のかわいいメスの子供がとうとう産まれた。すぐに授乳も確認され、一安心。愛称はアルル、ミルルと決まり、皆さんに愛されてきた。

現在、アルルは繁殖目的で広島市安佐動物公園へ貸し出されており、二世誕生を楽しみにしている。そして、当園ではウィッキーとアシリを同居させて、あの「感動」を再び味わいたいと思う。

カリフォルニアアシカ

担当 2班 千葉 可奈子



小さい頃のナナミ(手前)とスミコ
堂々とした姿のマヤ

当園では、オスとメスの2頭のカリフォルニアアシカを飼育している。メスのスミコは、昭和63年10月20日、神戸市立王子動物園からお嫁入りしてきた。嫁入り当時まだ1才の子供だったスミコも22才になった。

スミコは22年の間に4回の出産をした。一番最近の子供は、平成17年に、3番目の夫であるマヤとの間に生まれた子供だ。名前は「ナナミ」。平成19年、愛媛県立とべ動物園に嫁入り後、ジャンプで一躍有名になったアシカである。ナナミが嫁入りする前は、母娘で頭を並べてよく昼寝をしていた。娘に魚を横取りされたこともあったが、怒らず娘に魚を譲るなど、とても優しいお母さん

だった。娘が有名になり、たくさんの人たちに愛されていることは、母親のスミコにとっても嬉しいことだと思う。

さて、娘を嫁に出し、夫婦水入らずの毎日が戻ってきて、はや2年。意外とドライな性格のスミコ。夫と四六時中一緒にいる訳ではなく、気分がのらなければ夫からの泳ぎの誘いやラブコールを無視する時もある。熱烈アピールの時には怒ったことさえあった。

しかし、ひとたび一緒に泳ぎだしたら一気に二人の世界に。餌も食べず、飼育員も無視。極端な愛の温度差を持っている2頭ではあるが、2頭の間に再び新しい命が誕生することを期待している。

アミメキリン

担当 3班 佐藤 光



リンリン(右)とオスのジュン

展示場や餌、オスとの同居などの問題でいろいろ苦労をした搬入時に比べ、今はのどかに過ごすリンリン。発情も周期ごとに見られ、オスの発情行動も確認でき、繁殖に期待が膨らんでいたところ、日動水より「キリン飼育管理マニュアル」作成にあたっての研究と調査の協力依頼があった。4月の終わり頃を境に繁殖行動が認められなくなっていたため、この機会にと参加させていただいた。調査は、採糞をし、糞中性ホルモンの測定、分析による繁殖生理状態の把握、そして各個体に

ついでアンケート等々だった。

1か月間にわたり糞を検査していただいたが、糞中プロゲステロン値が高く、妊娠の可能性が高いとの結果をいただいた。100%とは言えないとのことだったが、5月からの行動等々と照らし合わせると、どうも期待できそうだ。オスの年齢(16歳)を考えると是非にでも繁殖にこぎつけたいものだ。